

エコニュース さって



第 6 5 号
平成 28 年 7 月 14 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

平成 28 年度 第 1 回幸手市民環境講座

「中川探検ウォーク」～日本の桜のルーツ、ヒマラヤ桜を植樹しよう～

講師：NPO 法人とよあしはら 山本裕隆氏

報告：宮田

平成 28 年 4 月 23 日（土）東公民館に集合した参加者 20 名は中川遊歩道「ふれあい散策路」を通り、宇和田公園に向け中川探検ウォークがスタートしました。

散策路の途中に何種類かの樹木が狭い範囲に生えているのを見つけました。講師によると「中川の水で運ばれた種が育ち木となり、その木に鳥が集まり、鳥がするフンの中にあるほかの樹の種が芽を出し育った『鳥が植えた木』との事でした。

今年のテーマは“サクラ あれこれ”。桜はアジアの温帯地域に分布する植物で、その故郷は雲南省からネパールにかけての常春の国です。

桜と言えばソメイヨシノと思っている方も多いと思います。日本古来の原種である桜は江戸彼岸、大島桜、吉野桜、富士桜、山桜が有名ですが、ソメイヨシノは江戸彼岸と大島桜の交配から

中川を探検する参加者



生まれた園芸品種だそうです。旧権現堂川の堤防の一部を利用した、両側が低くなったかまぼこ状の形態をしている宇和田公園、その中でも多く植えられている桜、その寿命は 100 年、人間と同じで 20 年～50 年がピークで、50 年～70 年を過ぎる頃から弱ってくるそうです。また、一見弱そうに見える江戸彼岸の変種、枝垂桜は風に強く、1000 年も平気に生き抜くそうです。

公園中央にある銀杏の木は寿命が長く、夏は大きな日陰をつくり落葉する冬には沢山の陽射しを降り注がせる等、常緑樹と針葉樹が全体にバランス良く配置されています。



植樹中のヒマラヤ桜の苗

ところが、新しい木は『鳥が植えた木』だそうです。自然のままではバランスが保てないので、公園や緑地は植えてからある程度たった人間の手が必要となるそうです。今回の中川探検ウォークではヒマラヤ桜の苗木を 1 本植樹しました。ネパールから持ってきたヒマラヤ桜の種から苗を育て、その苗を買うことでネパールの留学生への資金援助となるということです。ヒマラヤ桜は名前から想像するよりも寒さに弱いので、宇和田公園の中でも日当たりが良く、風が当たらない場所に植えました。

参加者一人ひとりが苗の根元にスコップで土と腐葉土を掛けました。中川探検ウォークで植樹は初めての試

みでしたが、とても良い記念となりました。(以下、参加者の声)

- ・毎日の様に散歩するコースなので、成長を楽しみにしている。
- ・写真が趣味なので成長記録を撮ってみたい。
- ・孫に「おじいちゃんの植えた桜だよ」と教えたい。
- ・5年後の開花が楽しみ、桜の花の下でお花見をしたい。等々最後に「皆さんが近くに行った時には、桜に声を掛けて観察してあげて下さい」と講師からお願いがありました。

第 10 回ホウネンエビ観察会

報告：福田

5月14日(土)五月晴れのもとで、西公民館及びその周辺田んぼ(千塚)で行われました。はじめに公民館にてさちネット専門スタッフから、ホウネンエビの生態等について詳細な説明がありました。次に司会からの田んぼでの観察上の注意点などを聞いた後、西公民館を出て田んぼに移動しホウネンエビの採取作業に入りました。子供たちは各自用意した水中生物採集網で上手に捕っていました。100匹以上も捕った子供もいました。楽しい自然との触れ合いで、



ホウネンエビ捕獲中

大人も楽しく過ごせたのではないかと思います。毎年のことだそうですが菅谷さんの田んぼに一番多く発生するそうで、今年も同じでした。

葛西用水を使わず、地下水を用いているからといわれていました。田んぼの畔がコンクリートできているので草が生えないため、他の田んぼのように除草剤を用いないことも一因ではないだろうかとも思いました。

捕らえたエビを公民館に持ち帰り、用意したスタンドルーペ、ファール顕微鏡やミルソー等でエビの大きさ、特徴、雄雌、卵の有無などについて観察しました。ファール顕微鏡は、焦点が上手く合わず苦労した人もいたようでしたが、ほとんど全員がホウネンエビについて詳しく学習し、楽しいひと時を過ごせたと思います。

捕ったエビは子供達が持ち帰りました。短命な生物なので、十分に観察した後は、近くの田んぼに戻してやるように指導していました。田んぼには、ホウネンエビの他、オタマジャクシ、アメンボ、ゲンゴロウ、ヒル、ミジンコ等多数の生物を再確認できました。

最後に会長より、総括として、本年度は参加人数が28人と多いだけでなく、親子三代で参加された方や、子供が7人もきてくれたことで、自然と接する機会を大切にしてほしい旨の言葉で締めくくりました。何年も経過すると周りの環境が変わってしまうのが普通です。あと何年ホウネンエビを見ることが出来るだろうか。自然を大切にする心が子供達に伝わるように、ネット会員全員で今後も努力したいものです。



学習は、楽しいひと時

平成 28 年度幸手小学校出前環境講座

報告：澤村

開催日時：平成 28 年 5 月 27 日（金） 10：10～12：00

ゲストティーチャー：久保田、宮田、藤城、石井、高久、小谷、唐澤、坂本、生澤、福田、澤村

テーマ：「身近な環境の生き物を調べよう」

田んぼには「田んぼの妖精」とか「田んぼの天使」と言われている『ハウネンエビ』が毎年 5 月に生れています。皆さんの身近には沢山の生き物、草花などがあります。今回も行幸地区の田んぼから「ハウネンエビ」を採取し、学校の北門のところにある「ビオット」（ビオトープ）や道端に生えている草花を使って、幸手小学校の 4 年生 2 クラス 44 名の児童と私達ゲストティーチャーで身近な自然について調べ観察学習を行いました。

講座は、校長先生、ゲストティーチャー代表の挨拶に始まり、石井ゲストティーチャーから、田んぼに生きるハウネンエビの名前の由来や発生する条件、特徴の説明を受け、ハウネンエビ観察と植物観察の 2 グループ×各 4 班に分かれてグループ単位で交互に移動して学習することでスタートしました。

ハウネンエビの観察を行う教室では、班ごとにミルソー（薄い観察用水槽）とルーペで観察、各ゲストティーチャーから①オス（頭に触角がある）とメス（お腹に卵を抱えている）の見分け方、②泳ぎ方（11 対計 22 本の足で逆さになって餌を手前の方へかき寄せる）などの特徴を説明しました。初めて接した児童達から、驚きの声があがり、その表情は未知の生命に遭遇したかのようでした。また、児童達からミルソーの中のオス、メスの匹数を数えてほぼ同じ回答があり見分け方も分かったようで、「触って見たいですか？」問うたら、皆うなずいていたので、網ですくって手のひらに乗せてやると、皆喜んで「プチプチしている、ヌルヌルしている」とか、実際に触れることで観察の実感が伝わった気がしました。更に双眼実体顕微鏡を使いメスの卵を観察し、「卵が見えるかな？」と問うと「赤い卵が動いているよ・・・」と驚きの声がありました。今年は、全体的に小さいハウネンエビでしたが、皆が特徴を理解したようでした。

身近な植物や草花を観察する教室では、ヘビイチゴ、ドクダミ、オオバコ、タンポポ、ジャガイモの実（花が咲いたあとに実った緑色でミニトマトのようなもの）の特徴を説明しました。「ヘビイチゴ、ドクダミ、オオバコ、タンポポ、は食べられ、お茶とか薬にもなるよ」と言ったら、ヘビイチゴを食べて美味しいという声が聞こえました（本当は、美味しくないはずですが香りが良かったと思います）。「ドクダミは特に毒を消す作用があって、キズにも効くよ、また花に見える白い部分は花ではなく「がく」であり、中の黄緑部分が花です」と説明したら、「臭いけどきれいだね」、「アロエと同じだ」、「花びらではなく、『がく』であることを覚えておこう」という声が聞こえました。また、ヘビイチゴ、ドクダミ、タンポポは虫が花粉を運ぶ「虫媒花」で、オオバコは風が花粉を運ぶ「風媒花」と説明し、それぞれの花を双眼実体顕微鏡で観察し、特にタンポポの綿毛の先のトウモロコシ状の実に関心が集まりました。また、ジャガイモの実は毒で食べられないことを強調しました。児童達から「シロツメクサも顕微鏡で見たかった。花の冠の作り方を教えて欲しかった」という声が聞こえたので、次回は考えたいと思いました。そこで「後でシロツメクサの由来の話があります。」つけ加えたら「わあ、楽しみ」と応えがありました。児童達のノートを見ると、それぞれが観察したハウネンエビや草花の絵がきれいに描かれ、特徴がメモされていました。

観察会終了後、全児童が集まり、学習のまとめとして、「ハウネンエビの一生」がビデオで報告されました。その後、藤城ゲストティーチャーから、クローバがシロツメクサと言われた由来は、江戸時代にガラス製品を輸入する際に割れないように乾燥した花と一緒に詰められたので「白い詰め草」から派生した日本名との説明があり、「生態系のピラミット」の話があって、「身近な生き物を大切にしよう」で締めました。

最後に、児童達に感想を聞くと手がいっぱい上がり、数名からでしたが「オオバコ、タンポポ、ヘビイチゴなどが食べられることが分かりました。ドクダミの花は『がく』で、中の黄色いところが花だと知りました。ジャガイモの実からトマトと同じ仲間であることを知りました。また、それは青いので毒があることも分かりました。ホウネンエビには沢山の脚があり逆さで泳いでいることが分かりました。」との率直な感想を聞き、子供たちが自然へ関心を持ち、これからは自ら自然について学ぼうという意欲を感じ、今回のボランティア活動も効果を意識し、今後も継続していきたいと思いました。



草花観察グループ：良く観て真剣にメモ



ホウネンエビ観察グループ：オス、メスが何匹！



タンポポのトウモロコシ状の実を観察中



最後に校長先生から、自分からも調べようね！

【会員募集中！】 環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。[さって市民環境ネット] ★問い合わせ 澤村 邦夫 (代表) まで TEL 0480-42-3384

幸手の環境活動グループ： 幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園 20 期)